W校中高等部だより

球技大会特集

平成三十年(二〇一八)五月二十日
ニューヨーク補習授業校W校



今年度もW校中高等部の球技大会が五月二十日に盛大に行われました。

前日まで降り続いた雨のために、グラウンドの使用が出来なくなり、サッカーは中止を余儀なくされましたが、球技大会に参加した中高等部の生徒たちは、さわやかな汗を流しました。

また、生徒たちは、クラスごとに色を決めたTシャツに、各クラスで考えた独特のデコレーションを施し、大会気分を盛り上げていました。

球技大会は、中等部二年の鈴木豪一君の元気の良い選手宣誓を合図に、男女混合縦割り八チームに別れ、バスケットボール・バレーボール・ドッジボールの三競技を行いました。また、最後には紅白に分かれての全員参加の大ドッジボール大会も行い、生徒たちは、自分の得意な種目だけでなく、みんなで一つになって、活動を楽しんでいる姿が印象的でした。

二週間前からチームごとに昼食をとったり、チームワークを高める活動(チーム名確認ゲーム、名前覚えゲーム、チーム練習など)をしたりしてきたことで、グループ同士の顔や名前を覚え、高等部のリーダーを中心にまとまったチームができました。生徒たちが汗をかきながら得たものは、学年やクラスを超えた団結・協力・相互理解、そして、諦めない心。生徒たちにとって、この球技大会は補習校ならではの思い出作りの場となりました。

競技に参加した生徒一人ひとりの活躍する姿、下級生を思いやり、チームを上手く牽引する高等部のリーダーの頼もしい姿、そして何より、全員の輝く笑顔、普段の授業日には見られない新しい姿をたくさん見ることができました。



総合成績

一位：Bチーム

二位：Gチーム

三位：Hチーム

競技ボランティアの皆さん

卒業生　鹿内君、宮崎君、細野君、宮部君、福島君、ショベ君
押川さん、清水さん、武神さん、松野さん、デイビッドさん

競技ボランティアを卒業生にお願いしました。卒業生たちは、この球技大会の準備のために来校し、ジムのバレーコート、バスケットコート、ドッジボールコートのラインテープ貼り、ネット設営などの準備に献身的に取り組みました。また、大会運営のため、準備から進行、後片付けまで、陰でこの大会を支えてくれた保護者会ボランティアの皆様にも感謝申し上げます。

初めての球技大会

中等部一年一組　柴﨑　勇輝



五月十二日土曜日、球技大会の一週間前に中等部から高等部が集まってチームに分かれた。AからDの赤チーム、EからHの白チームの中で僕はFの白チームでした。僕のチームは男子五人女子六人でおとなしいグループでした。自己紹介の時もみんな声が小さかったです。練習の時、無言が続いてしまっていたので正直少し心配でした。

一週間後、待ちに待った球技大会が来ました。昼ご飯の時間になりました。先週と同じように静かでした。しかし、高校二年生の先輩が沈黙を破り、中学生の僕たちに話しかけてくれました。あまり会話が続きませんでしたが、勇気をもって知らない人に話しかけることはなかなか僕にはできないと思います。数分後に体育館に行き、バレーボール、バスケットボール、ドッヂボールなどをしました。僕は、アメリカにきてからずっとサッカーチームに参加していたので、サッカーがなかったのが少し残念でした。来年はアメリカにいないので最初で最後の球技大会でしたが、ものすごく楽しかったです。

球技大会では、あまり先輩と話せませんでしたが勇気を出して声をかけるのは大切だと学びました。ぼくも先輩になったら後輩の手本になれたら良いなと思います

初めての球技大会

中等部一年一組　中村　開翔

球技大会、この行事は僕の初めての体験で、とてもいい経験になりました。球技大会があることを二、三週間前に知り、クラスで僕は楽しみな気持ちと不安な気持ち、その二つの気持ちがありました。

そんな中迎えた球技大会の練習、そこで初めてチームメンバーと顔を合わせました。最初は不安でしたが、チームのみんなと話すことが出来たので、不安は無くなり楽しみな気持ちでいっぱいでした。ですが、球技大会当日、まさかのチームメンバー変こう、それを聞いた時僕の中で影をひそめていた不安が再び僕をおそいました。そんな状態で始まった球技大会、僕の不安通りバレーボールはうまくいかず敗北し、僕は少しあきらめかけていました。

しかし、一人の新しくチームに入った高等部の先ぱいが、一人一人に声をかけはげましてくれました。続くバスケ、ドッジボール、その先ぱいは見事にチームをまとめあげてくれました。その先ぱいのおかげでチームが以前とはちがう別のチームになったようでした。そして、バスケもドッジもチームワークが発揮できました。

僕はこの球技大会で、コミュニケーションの力の強さを知りました。なぜならあの先ぱいはチームとコミュニケーションをとったことで、チーム全体を変えたのです。僕も、もし自分が高等部として球技大会に出るなら、あの先ぱいのようにチームのリーダーになれるような人になりたいです。



初めての球技大会

中等部一年二組　的場　千奈

「起きて、起きて千奈！！」母が目覚まし時計を止めて私に言った。私は、「日曜日だからもう少しゆっくりさせてよ。」と思った。しかし、すぐに思い出した。今日は、補習校初めての球技大会だった。

私ははね起きて服に着替えた。Tシャツはクラスの子たちと決めたTシャツだった。新しくて、Tシャツの独特なにおいがした。私はTシャツに着替え、朝食を食べ、補習校へと向かった。私は、その時すでに心臓がドキドキしていた。補習校へ行って一～四校時まで短縮授業を受けた後、お弁当を食べて、ついに待ちに待った球技大会が始まった。初めての球技大会だったので、最初はとてもきんちょうしてしまった。先ぱいの人たちも最初はきんちょうしていたのだろうか。誰かが失敗しても声がけができなかった。最初の種目は、バレーボールだった。バレーボールの経験がない私は、なかなか上手にできなかった。しかし、やっているうちに慣れ、サーブがうまくできるように



なった。結局、勝つことはできなかったけれど、私にとってはとても楽しいひと時だった。次にやった種目は、ドッジボールだった。私はボールを投げるのはそんなに得意ではなかったので、他の人たちが力強いボールを投げた時は、つい「すごいなー。かっこいいなー。」と、見とれてしまった。一回目は外野、二回目は中に入った。ほんの少しだけどチーム力がついた気がする。最後は、バスケットボールをやった。私は、後半戦に出た。バスケットボールでは同級生の子が何度かパスしてくれた。しかし、ぎりぎりの所で入れられなかった。とてもくやしかった。卒業生の人たちが大丈夫だと言ってくれたので、少しほっとした。締めくくりは、大ドッジボールだった。それは、意外にも楽しく、そのころにはきんちょうもほぐれていたのでよかった。私のチームは負けてしまったが、とても良い思い出になった。

帰りの車の中で私は「球技大会楽しかった。」と母に伝えた。母は「よかったね。」と言ってくれた。母は、ドッジボールで私がボールに背を向けて走っていたことにびっくりしたそうだ。私はその時、そんなことは一度も思わずに無我夢中で走り回っていた。手足が疲れていたが、心は晴ればれとしてすっきりしていた。補習校初めての球技大会は、説明できないほど楽しかった。来年の球技大会まで待ちどおしい。

「がっかり」からの「ガッツポーズ」

中等部一年二組　ウォーカー　美咲

中等部に入って、運動会がなくなった。代わりに、初めての「球技大会」。ちょっとドキドキ、ちょっとワクワク。クラスごとではなく、中高等部のお兄さんお姉さんと一緒のチームになった。練習は一回だけ。チームメイトと慣れてきたところで、球技大会当日。

朝、先生がクラスに入って来ると、「ウォーカーさん、チームが変わりました。」「え…？」私は、まばたきせずに、先生の方を向いた。私は、Cチームから Gチームへ、そして、赤組から白組へと、三秒で変わってしまった。チームメイトと友達になれたばかりだったのに、球技大会当日チームが変わった。今までの嬉しい気持ちが、私の中から流れていくようだった。ランチの間は、チームメイトと座る決まりだけれど、チームの中であまり話すことがなく、とても静かだった。

でも、いざゲームが始まると、チームリーダーの高等部のお兄さんを中心に、みんな声をかけあった。一つ目のバスケットボールは、前半ゼロ対三で、あきらめかけたら、後半が終わってみると、十七対十一で勝利。二つ目のバレーボールは、何と一点差で勝った。三つ目のドッジボールは、最初の二つの競技より簡単だと思っていたが、大間違い。残念、負けてしまった。最後に、白対赤の大ドッジボール大会。知らない間に、白組が勝った。そして、結果発表。私達 Gチームは、第二位！ 最初がっかりしたのが、うそみたい。Gチームで、良かった！来年の球技大会が、今から楽しみだ。



球技大会

中等部二年一組　鈴木　豪一

球技大会では選手宣誓をしました。最初は緊張したけど、終わったらほっとして達成感がありました。

バスケットボールでは、後半相手選手の背が高くて、一点も取ることができませんでした。バレーボールでは、ルールが思っていたのと少し違っていて混乱しました。でも、少しずつ分かってくると盛り上がってきましたが、また負けてしまいました。ドッジボールでは、現地校では外野がないのに、補習校球技大会では外野があるのでボールを避けるのがとても難しかったです。その分内野に戻りやすいのはよかったです。でもまた負けてしまいました。

一番最後の大ドッジボール大会では二つもボールがあり、外野もあるので、ボールがどこからでも飛んできて面白かったです。何回もアウトになったけど、その分外野から内野に何度も復活しました。

アウトなのに当たってないと主張する人が、現地校では何人もいるけど、補習校では、みんなきちんとルールを守って、選手宣誓で誓った通り、スポーツマンシップに則って楽しく気持ちよくプレーができました。楽しくプレーすればいいのに、勝つことばかり考えるのは意味がないと思うので、補習校の球技大会では清々しい気持ちになりました。

ずっと敗北ばかりでしたが、僕は楽しかったです。クラスの仲間だけではなく、違う学年の仲間とも協力してチームプレーをすることで、名前を覚えたり、親しくなれて、貴重な経験でした。球技大会は終わったばかりですが、来年の大会が待ち遠しいです。

二回目の球技大会

中等部二年一組　フィッシャー　ケイト

五月二十日は、私にとって二回目の球技大会でした。今年もまた楽しい球技大会だったと思いました。私は水泳選手なので、他のスポーツは全部苦手です。だから、サッカーが出来なかったことは少しうれしかったです。

最初に、バレーボールをやりました。ボールを触ったのは、サーブの時だけでした。私は試合にもっと参加すればよかったと思いました。

次は、バスケットボールでした。私は、またあまり活躍できませんでした。

でも、一年生の球技大会の時と比べて、今年の球技大会はずっと楽しかったと思いました。今年は、チームの人ともっと話をして、新しい友達を作った感じがしました。

普段、やらないスポーツを楽しめてよかったです。



技大会を振り返って

中等部三年一組　吉江　ふづ喜

今回はのみの市に続き、初めての行事だった。率直な感想を言うと、まあ疲れた。翌日久しぶりにボールを投げたからなのか、肩が少し筋肉痛になっていた。

当日は、まずドッジボールをした。結構強力な球が飛んで来るので、めちゃくちゃ怖かった。結果は引き分けと一勝。得点は15点だった。後から思ったのだが、ドッジボールの配点はなぜあんなに少ないのだろうか。でも、最初に勝てたので嬉しかった。

次は気合いを入れていたバレーボール。私ともう一人がバレーをやっているので、いけると思っていた。しかし、ボールがやけに軽くて大きいのと、何より相手チームが強いので、結果負けとなってしまった。でも、一点差だったから引き分けと言っても良いと思う。しかし、バレーで負けたのは一番悔しかった。

最後はバスケだった。前半と後半でチームを分けるのだが、経験者をかためて片方捨てた方が良かった気がする。自分は全く経験ゼロなので、相手を邪魔する係だった。できなかったけど。でも、一番チームとして機能できた競技だったと思う。結果は負けてしまったが。

総合の結果ははっきりとは覚えていないけど、最下位ではなかったと知ってホッとした覚えがある。その後の校長先生の話で、結果ではなく、チームの一員として戦う時にできる交流が、球技大会の目的だと知って、それでもいいのかと思った。結果はともあれ、チームの中で学年関係なく話せたのは、面白かった。こんな先輩になれたらいいなと思った時もあった。今回の球技大会は忘れられないものになったと思う。最後に一言だけ言わせてもらうと、ルールを少し見直して欲しい。それ以外の面では、本当に楽しかった。



球技大会を終えて

中等部三年一組　武田　悠里

補習校の、いわゆる「大きな行事」に出られるのは最後だと分かっていた。三年目になってまだ中三の自覚がない私が、どのようにチームに貢献出来るのか。しかも、私は運動音痴で、バスケットボールとサッカーが好きではない。中学三年生は、中等部の最高学年として、チームの中でも高等部を支え、中二や中一の子達に積極的に声をかけていかなければならない。今まで先輩達の背を見てきたからこそ、今回は私達がそのような努力をしなければならない。緊張感と共に、笛は鳴った。

サッカーをやらないというニュースに喜んだ私だが、バスケットボールはまだやらなければならない。何回かボールを触ったものの、攻撃は男子に任せきりであった。その時、後ろの方でのんびりしていた私が、とても驚いた事があった。相手チームの高等部の先輩が、ボールを奪ってこちらに走って来たのだ。しかもチームメイトに声をかけながら。彼女の、積極的に試合に参加しようという熱い志に、心を打たれた。それこそが、上級生のやらなければならない事なのか、と。しかし、これだけではない。彼女のチームは、自分達の番が終わった後でも、みんなで全力で応援していたのだ。一方、私達はバラバラで、応援の声は、相手のかけ声に打ち消された。私はどれほど思い知らされたか。私の考えていた「貢献」と、本当の「貢献」は、かけ離れていたことを。



他の試合は勝てたので、わりと満足していた。しかし、上位三位には入れず、大道の商品券がもらえない、と友達と嘆いていた。それでも、このような小さなひとときも良い思い出となった。今回の学びは、リーダーとはどのような人か、貢献するとはどういうことかであった。やる気もなくただでくの坊になるのではなく、積極的に試合に参加し、自分の番が終わっても仲間を応援してあげる。そのような意気込みが必要であった。最後に、高等部のみなさん、私達を率いてくださりありがとうございます。球技大会は、一つの宝として幕を閉じた。

球技大会

中等部三年一組　パルミエリ　リーアム

今年で、中等部最後の球技大会が終わりました。来年は高等部になるのでチームのメンバーだけでなく、チームのリーダーに近づきます。そうなるとぼくがボールに触る回数も減り、ぼくより小さい子たちにパスをしたり、投げさせてあげたりすることになるので、今年こそがんばろうという目標で行きました。

最初のバレーボールでは、チームの勢いが合わなくて、結局2回とも負けてしまいました。ドッジボールになって、ぼくは相手チームをバンバン当てましたが、結局また負けてしまいました。ぼくは負けたことに少しがっかりしたけれど、友達を何回も当てることができて、盛り上がってとても楽しかったです。最後のバスケットボールになった時、ドッジボールの間は夢中になって自分勝手だったぼくは、できるだけ年下の子にパスをして、シュートさせてあげようと思いました。やっぱり自分ばかり活躍するより、みんなで楽しくする方がいいと思ったからです。

今回の球技大会は、がんばって活躍して、楽しく過ごせて本当に良かったです。違う学年の人とも話したりできたのも良かったと思います。チームのみんなもぼくと同じように楽しかったら嬉しいです。

来年ぼくはもう高校生になり、球技大会はあと二回しかありません。あとの二回は自分の活躍ではなく、年下の子が楽しくできることを目標にしています。みんなでがんばって、笑って、来年の球技大会でも楽しい一日を思い出に残したいです。



球技大会

中等部三年二組　那須　咲代

「シュート！頑張れー。」
私はＧチームのチームメートにサイドラインから声をかけた。球技大会の開会から約十二分。私達は最初の競技であるバスケの前半に取り組んでいた。Ｇチームの前半のメンバーは一生懸命やっていたが、
「あっ！おしい！」
後少しで入りそうだったボールもミスしてしまい、相手がボールを取った。ドリブル、パス、シュート。相手チームはまたスコア。私のチームの皆は溜め息をついていた。
「ピッピー。」ホイッスルの音で前半が終わった。私のグループは丁度十人なので、全員入れ替わった。
　私はドキドキしながら試合に入った。ボールが空中に投げられた。すると、相手チームにボールを取られた。「しまった」と思いながら、私は相手チームのメンバーがパスを受けられないように前に立ち、ブロックした。ボールを持っていた人が誰にパスしようかと迷っていた隙に、私のチームの一人が素早く横からボールを取った。
「キャー。」
サイドラインから興奮した声が聞こえる。
ドリブル、シュート。
「入った！」
私はチームメートにニコッとほほ笑みかけた。
それから私達は、パスやブロック、ドリブルやシュートをたくさん決め、次々に得点していった。前半は負けていた私達のチームはすぐに逆転した。試合を通して、あまり良く知らなかった学年や組が違う皆の間にチームワークが生まれていった。
「ピッピー。」試合が終わった。
「勝ったね！」
勝ったことに少しびっくりしていた人もいれば、満足そうに笑みを浮かべていた人もいた。
　その後、私達はバレーボールの試合にも勝利し、ドッジボールでは引き分けた。
その結果、なんと私達Ｇチームは総合二位になったのだ。



　この中学生として最後の球技大会は、チームワークの大切さを改めて私に気づかせてくれ、素晴らしい思い出になった。

三度目の球技大会

中等部三年二組　松下　愛理

　今年の球技大会は私にとって三度目の球技大会。自分のチームがまさかの全敗だったのは今年が初めてだった。バスケットボール、バレーボール、ドッジボール。どれも惜しい、ほんの少しの点数差で負けてしまった。
　一つ目の競技はバスケットボール。私のチームの中には「バスケが得意！」という人は誰もおらず、みな自信のない顔で試合の前半が始まった。でも、チームの一人が得点した瞬間、私のチームは自信を取り戻し、なんと後半に入るころには相手チームを抜いていた。私はこの前半戦に入っていたが、奇跡的に一点をいれることができ、自分でも驚いたがチームに少しでも貢献できたことがとてもうれしかった。しかし、残念ながら後半戦で相手チームの猛反撃を受け、悔しいが負けてしまった。
　二つ目の競技は私が最も得意なバレーボールだった。掛け声をかけあいながら、そして笑いながら挑んだこの試合は私にとって一番楽しい時間だった。チームの一体感も感じられ、和気藹々としたこの対戦は今回挑戦した競技の中で最もよかった。
　そして最後のドッジボール。私は元外野として活躍した。最後の競技だったからか、ドッジボールをしている時はとてつもなく疲れており、はっきり試合のことを覚えていない。ただ、私のチームも相手のチームも明るい笑顔でやっていたことだけはちゃんと覚えている。
　今年の球技大会は全ての競技で敗れてしまったが、私のチームは最初はあまり盛り上がらなかったものの、だんだんと打ち解けていき、最終的にはみな楽しく笑顔で球技大会を終えることができた。全敗だったにも関わらず笑顔で閉会式を迎えることができたのは、私のチームは勝ち負けを目的にするのではなく、楽しく笑顔で過ごすことを意識していたチームだったからと思う。このチームでよかったな、と帰り車の中でそう思いながら私の三度目の球技大会が終了した。



球技大会

高等部一年　若松　みなみ

今年は二回目の球技大会だった。去年とは違って高等部になり、チームのリーダーとなった。チームは知らない子が多く、ちゃんとみんなをまとめられるか正直不安だった。前の週にお昼を一緒に食べたときも、まったく喋れなかったので余計に心配だった。

ついに当日になった。チームの中にはバスケ、サッカー、バレーボールの経験者が一人もいなかったため、経験者がいるグループに比べれば明らかに不利だった。一番初めの種目はバスケットボールだったのだが、チームを分けるのも大変だった。人数が少ないため二回戦とも出る人が必要だったのだが、みんな自信がないのか二回戦とも進んで出てくれる人がいなかったのだ。しかし私が困っていると一人の子が自らすっと手を挙げてくれて本当に助かった。試合は八対十二と前半は勝っていたものも負けてしまった。それでも得点の差が小さかったのは、みんなパスをしあったりして協力したからこそできたことだと感じた。



次の競技はサッカーが中止になったので、バレーボールになった。バスケで負けてしまってもチームの雰囲気は悪くならなかったので、とても良いなと思った。試合中、パスがうまくつながり見事に得点が入った。誰かがサーブミスをしてもその人を責めることはなく、みんなでお互いをほめあっていて、本当に元気で優しい子が多いなと心から思った。結果は惜しくも負けだった。

最後の種目はドッジボールだ。バレーボールの時と同じように雰囲気を壊そうとする人は一人もいなかった。外野の人と協力したりする姿が見られてうれしかった。みんなが笑顔で真剣に参加している姿を見て「自分も最後まで残らないと。」と思えた。

結果は全敗だった。それでも、どの種目もぼろ負けではなく惜しいものばかりだった。今回なによりもよかったと思ったのは、チームの人と仲を深められたことだ。もちろん勝ち負けも大事だが、今まで一回も話したことのなかった下級生と話すことができてとても良い思い出になった。去年は今年よりもさらによい経験ができるように努力したい。

球技大会

高等部一年　豊村　真帆

いくらスポーツが苦手と言っても、やはり目の前で試合が行われていれば誰だって食いつくものだ。サッカーが中止になったため、私のチームは最初にボール拾いという名のバスケ観戦をした。ほかのメンバーを見てみると皆ボールを目で追ったり、シュートが決まれば笑って拍手をする、といった興味を示していた。つまらなさそうに下を向いたりしている人がいないことに私は安心した。今年の高等部になって初めての球技大会で、私には目標があった。それは自分だけでなく、後輩たちにもこのイベントを楽しんでもらうことだった。スポーツ経験者が少ない私達のチーム。だがそれは「試合で不利」というより、「皆同じくらいのレベル」なのではないかと私は思った。毎年必ず見るのは経験者のみでボールを回し、点は稼ぐものの、他の人は一度もボールに触れさせてもらえないという問題だ。試合に勝つのは気持ちが良いが、私はそのやり方がとても嫌いだった。球技大会の目標は勝つ事じゃなくて他学年と仲良くなることだろ、と叫びたくなる。

私の予想通り、私達のチームプレイは最高、と言えるくらい良かった。ちゃんと一人一人にボールは回され、点も稼ぎ、私達は一試合目を勝つことが出来た。ほかの試合でも「大丈夫いける、やってみて！」とか「どんまい、次頑張ろ！」とお互いを応援し、引き分け、勝利、という嬉しい結果になった。正直このチームで勝つのは難しい、と最初は思っていたものの、「優勝」という素晴らしい結果を収めることが出来た。

チームプレイが出来て、後輩たちが笑顔で試合をするのも見られて、と、何の悔いも残らない球技大会だった。来年も、今度は高二として、同じくらいの成功と優勝を手に入れたい。



球技大会

高等部二年　クリーグ　イザベル

ついに、中高等部での最後の球技大会が終わりました。私はグループ内の一番のグループリーダーの係で、中学生と高一のメンバーたちの面倒をみました。なるべく楽しい、面白い、優しいリーダーになれるように頑張りました。

五年前に、初めて球技大会に参加したときの、ちょっと緊張していた自分の気持ちを思い出して、なるべくグループのメンバーがみんな気持ちよく楽しめるように頑張りました。私は今年の大会でリーダーとして、たくさんのことを学びました。私が一番大切にしたことは、下級生たちとフレンドリーに接することでした。実は、私は話すときに日本語が時々変になってしまうことがあるので、うまく話せるかどうかドキドキしていたけれど、思い切ってみんなに話しかけるようにしました。一番おとなしいメンバーも楽しめるように、みんなに声をかける努力をしました。

もう一つ学んだことは、みんなを応援することです。バレーボールやバスケットが苦手な子がいても、ゲームでは、仲間を精一杯応援することがとても大切だと思いました。私のチームでとても良かったと感じたのは、誰かが苦手なことがあって困っていると、チームみんなで色々な方法を考え出して応援ができたことです。一人、バレーボールのサーブができない子がいたのですが、チームのみんなが色々なアイデアやアドバイスをした結果、サーブができるようになりました。これを見て私はとても嬉しい気持ちになりました。

結果は、私のチームは三位になり、賞品をもらうことができました。最後の球技大会で、大切なことを色々学べただけでなく、最後にみんなで喜べたので、私はホッとしました。補習校に通って球技大会を経験してきたことで、勉強以外の大切なものも学ぶことができて、とても良かったと思いました。
















LACROSSE! LACROSSE!

